

2026年6月21日 説教準備

使徒言行録13：1～12

アモス 7：10～15

「真実の教え」

➡ 断食して祈ることは、今の私を振り返ると、朝食前の空腹に耐え、説教準備をすることで、説教で語るべきメッセージをいただいていることに重なることと思いました。いま、この説教も朝食前に与えられています。

肉に支配されずに、主の霊に支配された状態で、主の思いを聖書から聞くことができるのではないのでしょうか。

・ロマ書8:5 肉に従って歩む者は、肉に属することを考え、霊に従って歩む者は、霊に属することを考えます。8:6 肉の思いは死であり、霊の思いは命と平和であります。

・ロマ書8:11 もし、イエスを死者の中から復活させた方の霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリストを死者の中から復活させた方は、あなたがたの内に宿っているその霊によって、あなたがたの死ぬはずの体をも生かしてくださるでしょう。

魔術師：μάγος, -ου, ὁ ①魔法使い、魔術師 ②占星術師、賢者（「博士」）、メディアの一部族マギ Μάγοιに属する人、マゴス；ペルシャ宗教に帰化して世襲的に神に仕えたが、彼ら特有の古い宗教習慣を持ち、占星術や夢占いその他の技術によって知られた。

13:7 この男は、地方総督セルギウス・パウルスという賢明な人物と交際していた。総督はバルナバとサウロを招いて、神の言葉を聞こうとした。

13:8 魔術師エリマ——彼の名前は魔術師という意味である——は二人に対抗して、地方総督をこの信仰から遠ざけようとした。

13:12 総督はこの出来事を見て、主の教えに非常に驚き、信仰に入った。

➡そのため9節でパウロは魔術師をにらみつけ、「主の道をゆがめようとするのか。」と言って、主の御手によって、その魔術師の目を見えなくした。総督は、この出来事を見て、パウロの言葉による主の奇き業を見たことだけでなく、そのパウロの教えに非常に驚いて、主の教えに驚き、信仰に入った。

■辞典より、北王国イスラエルはこの時代に繁栄の絶頂に達した。しかしその繁栄

の陰に、経済的不均衡と道徳的頹^{たいはい}廢は先行し、預言者アモスの痛烈な非難を浴

びた。(アモス 2 : 6 ~ 5 : 27、7 : 1 ~ 9 → ホセア 1 ~ 3 章)

アモス 2:6 主はこう言われる。イスラエルの三つの罪、四つの罪のゆえに／わたしは決して赦さない。彼らが正しい者を金で／貧しい者を靴一足の値で売ったからだ。2:7 彼らは弱い者の頭を地の塵に踏みつけ／悩む者の道を曲げている。父も子も同じ女のもとに通い／わたしの聖なる名を汚している。

先見者：חֲזִיָּה chozeh {kho-zeh'}

1) 予言者 1a) 予言者 1b) ビジョン

引照聖句：サム上 9:9 昔、イスラエルでは神託を求めに行くとき、先見者のところへ行くと言った。今日の預言者を昔は先見者と呼んでいた。

アモスは真実の見える預言者であったのです。

魔術師ではなく先見者であり、アモスは神からみ言葉を託され、パウロと同じ神の道を教える、預言者であり先見者であったのです。

そして、現在の社会において、科学、AI という魔術によって、真実を見失い、人間が生きるべき、社会や自然破壊や SNS の情報の氾濫によって、何が真実であるかを見失いそうになっています。

聖書の読み方にまで、その魔術の合理的な視点で、神の霊、キリストの霊の洗礼によって与えられた聖霊の恵みである内なるキリストの霊をすら見失ってしまってるのです。

・ロマ 8:11 もし、イエスを死者の中から復活させた方の霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリストを死者の中から復活させた方は、あなたがたの内に宿っているその霊によって、あなたがたの死ぬはずの体をも生かしてくださるでしょう。

・ヨハ 17:23 わたしが彼らの内におり、あなたがわたしの内におられるのは、彼らが完全に一つになるためです。こうして、あなたがわたしをお遣わしになったこと、また、わたしを愛しておられたように、彼らをも愛しておられたことを、世が知るようになります。

・ヨハ 17:26 わたしは御名を彼らに知らせました。また、これからも知らせます。わたしに対するあなたの愛が彼らの内にあり、わたしも彼らの内にいるようになるためです。」

水曜日の毎日新聞の水説で“レジスタンスと神父”と題した中で、第二次世界大戦で、独仏の暗い歴史を刻む時に、一人のドイツ人神父の活動が、のちの両国の和解の芽を育んだことは、あまり知られていません。

それは、ドイツ軍がフランスのレジスタンスの捕虜を収容する収容所に派遣されたフランツ・シュトック神父（1904～48年）は、刑執行前の囚人に礼拝をささげ、危険を覚悟で囚人の家族からのメッセージを彼らに届け、囚人たちは、最後の言葉を神父に託し、神父はそれを紙片に書留、家族に届けた。その姿を戦後、収容所の生存者たちが証言している。処刑前夜、妻に渡してほしいと、結婚指輪を神父に預けた囚人もいた。終戦後、43歳で肺を患い、天に召されました。その翌年、銃殺刑に処せられた家族が集まって、パリで神父の追悼式を行いました。フランス国民のドイツへの憎悪は残ったが、ドイツ人神父の活動で和らいで、63年独仏友好条約が結ばれ、1000万人以上の青年が相手国にホームステイし、草の根の信頼関係を築いています。

大きな戦争の中で、自分に何ができるのかではなく、目の前の大事なことに気が付いて、行うことが大切であるということです。

マタ 7:12 だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。」

という聖句を思い浮かべます。

この囚人たちの母への愛、妻への愛、そのためにドイツと戦い、ドイツ兵を殺してきた愛です。その中にあるレジスタンスのフランス人の囚人の思う、母や妻への「愛」に寄り添い、その「愛」を手紙で母親と子、妻と夫を結びつけるドイツ人神父さんの「愛」がイエス・キリストの教える「愛」アガペーなのです。

ヨハネ 21:16 二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛（アガペ）しているか。」ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛（フェロ）していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの羊の世話をしなさい」と言われた。